



CASE.01
長野県 小諸市



CASE.02
鳥取県 湯梨浜町



CASE.03
北海道 ニセコ町



CASE.04
宮崎県 串間市



創業事例集
Foundation Example

No.37

地域おこし × 自分おこし

新しい生き方、はじめました。

Contents



甲斐舞子さん
宮崎県串間市キッチンカー(クレープ店)
「GREEN FINGERS Botanical galette」

15

鎌田諭さん
北海道虻田郡ニセコ町
グローブメーカー「ニセコグローブ製作所」

11

鳥飼弥生さん
鳥取県東伯郡湯梨浜町
ヘアサロン「Seran」

07

今井正美さん
長野県小諸市
猫雑貨カフェ「ねこのや」

03

地域の課題に向き合う 自分の可能性に気づく

地域とともに歩む、新しい人生に踏み出した人たちがいます
その第一歩は、「地域おこし協力隊」からはじまりました



「地域おこし協力隊」とは

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

日本政策金融公庫は、全国152支店のネットワークを活かし、地域おこし協力隊の任期を終了して活動した地域で創業される皆さまをはじめ、地方へ移住して創業を目指す皆さまを幅広く支援しています。

詳しくはこちらから

<https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/ijusougyou/index.html>



澄み切った小諸の青空を、 いつまでも見続けていきたい



Nagano
Komoro

城下町の情緒を残す長野県小諸市。全国の地方圏と同様に人口減少や少子高齢化の課題を抱える同市では、地域活性化の一環として「地域おこし協力隊」を募集していました。実際に協力隊に参加し、その後2022年に猫雑貨カフェ「ねこのや」を小諸駅前オープンした店主の今井正美さんを訪ねました。



雑貨店
猫雑貨カフェ「ねこのや」店主
今井正美さん IMAI MASAMI
長野県出身。印刷会社やクリーニング店に務めたのち、別所温泉の旅館で仲居に。その後、小諸市の地域おこし協力隊に応募。3年の任期を経て、2022年8月に猫雑貨カフェ「ねこのや」をオープン。

目に留まった「協力隊」のチラシ それが、人生の転機に

猫のぬいぐるみや小物、猫をモチーフにしたハンドメイドのアクセサリーなどが所せましと並び、猫好きにはたまらないお店「ねこのや」。「猫カフェと勘違いされることもありますが、猫はいません(笑)。愛猫家や猫グッズ好きのお客さんだけでなく、コーヒーや地元産のりんごジュースを飲みながらくつろぐお客さんも多いです」と店主の今井さんは笑みをこぼします。

今井さんは長野県中野市の出身。県内の印刷会社や、クリーニング店のマネージャー業を経て、別所温泉の旅館で仲居の仕事に就いたことで「将来はゲストハウスを運営したい」という思いが芽生えました」と話します。その後、親類のいる大阪でゲストハウス巡りをする中で、目に留まったのが「小諸市が地域おこし協力隊を募集するチラシ」だったといいます。

真っ青な空と深い歴史 小諸の魅力に引き込まれて

当時、小諸市内には新たな観光拠点として、脇本陣の宿「糸屋(くめや)」がリニューアルオープン。そのため、地域おこし協力隊として、そのスタッフを募集していたそうです。今井さんは仲居の経験もあり、「将来ゲストハウスを経営する上でも良い経験になるとの思いもあり、協力隊に応募しました」。

北に浅間山、南に千曲川が流れ、国内でも屈指の晴天率を誇る



地域おこし協力隊時代の今井さん



「ねこのや」のカフェ&レンタルスペース
猫雑貨とともに、猫関連の書籍なども置く



「ねこのや」の窓から見える景色が今井さんのお気に入り

小諸市の青空に惹かれ、また同市の活性化の助力になればと今井さんは小諸に移住。「糸屋」のオープニングスタッフとして、「接客や予約管理、経営にも携わり、めまぐるしくも充実した毎日が始まりました」。

町の観光案内や魅力の発信にも力を入れ、「宿泊客の方

ら”小諸がこんなに歴史のある町だとは知りませんでした”などの言葉を多くいただき、とてもやりがいのある日々を送ることができました」と当時を振り

返ります。同時に、城下町や宿場町であった小諸の歴史の深さに触れることで、今井さんはさらに町の魅力に惹かれていきました。

夢に向かってスモールスタート その応援に駆けつけてくれた人たち

「糸屋」の仕事にも慣れてきた頃、コロナ禍に見舞われました。「思うように集客できない歯がゆさもありませんが、協力隊として

地域の人たちと交流できたことが、今につながっています」と力を込めます。

協力隊の任期は3年。任期終了後に向けた準備のため協力隊と並行して、今井さんは当初の夢だったゲストハウスの物件探しをはじめました。「猫が大好きなので、猫に囲まれたゲストハウス」というコンセプトは明確になりましたが、希望の物件が見つかりませんでした。そこで、まずは小規模なお店からスタートしようとして猫雑貨のお店からはじめることにしたんです。

開業に向けて動き出した今井さんでしたが、ハードルになった



ハンドメイド作家さんの作品も取り扱っている

のが「すべて1人でやらなければいけないという状況でした。雑貨の仕入れやメニュー開発などすべて1人で決めて、進めていくのは未知の世界でした」と話します。

それでも1人では限界があり、思い切ってSNSで「誰か、手伝いに来てください！」と発信したそうです。すると、「協力隊時代に知り合った人や近隣の人が応援に来てくれて。協力隊に参加して良かったと心から実感しました」と目を細めます。

1人では限界がありました 今があるのは協力隊のつながりがあったから



猫をモチーフにした可愛らしいラテアート

”地域に暮らす”ことで 見えてくる新しい風景がある

実際に創業することになると、大きなハードルになるのが資金調達です。「これまでの人生で大きなお金を借りたことがないので、事業に必要な資金を借り入れることに大きな不安がありました。そんな時に協力隊のつながりで知ったのが、日本政策金融公庫でした。その名前から厳格で近寄り難いイメージがありまし

た(笑)が、担当の方から、いつでも気軽に相談してくださいね」と言われて」と、そのひとりで大きな安心感に包まれたといいます。

資金調達のハードルもクリアし無事にオープンした「ねこのや」は小諸駅前であり、好立地に見えます。しかし、駅前には観光客の足は向きづらいそうです。「駅前



店舗は、小諸駅から徒歩1分のところにある

に足を向けてもらうためにも、『ねこのや』をもっとPRしていきたいと思っています。小さな店ですが、1つの起点になることができれば、町全体の魅力を知ってもらえる機会にもなりますから」。現在、小諸駅前には少しずつ新しいお店が増え、活性化の兆しもあります。



可愛い猫雑貨やグッズが所せましと並ぶ

今井さんのお気に入りには「ねこのや」の窓から見える、真っ青な空。その空を眺めながら「どちらかといえば、私は人見知り、積極的な人間ではありません。それでも地域の人たちとなることができたのは、地域おこし協力隊に参加したからこそだと実感しています」。

して「協力隊の中には、地域を変えたい」という人もいますが、私は「地域に暮らすことが何よりも大切だと考えています。地元の人たちと同じ時間を過ごす中で、地域の課題と向き合い、自分ができることに一つ一つ取り組めればと思っています。課題があるということは、改善や成長のチャンスがあるということですから」。澄み切った小諸の青空の下で、今井さんの夢は続いていきます。

■ Company Info ■

猫雑貨カフェ「ねこのや」

住所:長野県小諸市相生町1丁目
3-1 小諸ロイヤルビル2F
創業年月:2022年8月



事業内容:可愛い猫雑貨をそろえるお店。併設するカフェでは本格コーヒーや地元産のりんごジュースを楽しめるほか、レンタルスペースは仕事や勉強にも利用できる。

URL: <https://www.nekonoya.net/>

湯梨浜の海のそばへ なりたい自分になるために



Tottori
Yurihama

吹き抜ける潮風、きらめく白い砂、紺碧の空と海が広がる鳥取県の湯梨浜町（東伯郡）。この美しい景観を独り占めできるのが、ヘアサロン「Seran」（セラ）です。オーナーの鳥飼弥生さんは、趣味のサーフィンがこうじて、湯梨浜町に移住しました。その足掛かりになったのが、地域おこし協力隊でした。



美容室
ヘアサロン「Seran」オーナー
鳥飼 弥生さん TORIKAI YAYOI
大阪府出身。大阪で美容師をしながら、休日に趣味のサーフィンを楽しむ日々の中で、湯梨浜の海に出逢い地域に魅了される。その後、湯梨浜町へ移住し地域おこし協力隊として活動した後、2022年1月にヘアサロン「Seran」をオープンする。

自分らしい生き方を模索 趣味のサーフィンが人生の軸に

波音にやすらぎながら、ヘアカットができる「Seran」。店内の大きな鏡にはきらめく湯梨浜の海が映り、特別な時間がゆつ

たり流れています。オーナーの鳥飼弥生さんは大阪府出身。10年ほど前までは大阪で美容師をしながら、趣味のサーフィンを楽しむ生活を続けていました。国内外のさまざまなサーフスポットを巡るなかで出逢ったのが、湯梨浜の海。「きれいな景色に魅せられました。海辺にあるサーフショップの人たちと仲良くなり、近所のおじいちゃんやおばあちゃんたちも声をかけてくれて、その美しい自然と人の温かさ」に惹かれていきましたね」と湯梨浜の第一印象を話します。

大阪から湯梨浜町までは、クルマで片道4、5時間。夜中にクルマを走らせ、早朝からサーフィン、そして帰宅して仕事、そんな生活を続ける中で、「もっと自分の時間をもちたい、サーフィンがしたいと強く思うようになって」と鳥飼さんは移住を考えたはじめました。



気心の知れたサーフィン仲間たちとのワンシーン



食堂の一角を改装したヘアサロン「Seran」

移住することへのためらい 背中を押したのが、協力隊の存在

移住を考える場合、多くはその土地で仕事を見つける必要があります。また、本当にその土地で暮らしていけるのか、さまざまな不安が募るものです。鳥飼さんも移住をためらう日々が続きました。そんな時に背中を押していた地域おこし協力隊の存在

でした。「絶好のチャンスだと思いました。協力隊であれば生活の基盤があり、ここでの暮らしが長続きするか試すことができるところから」。

迷いがなくなった鳥飼さんは、湯梨浜町へ移住し協力隊に参加。町内の空き家を見つけて、持ち主と交渉、その物件を移住者へ



カットチェアに座ると、大きな鏡に湯梨浜の海が映る

趣味と仕事の両立 自分らしい生き方を求めて



リラックスできる
座り心地の良い
シャンプー台

橋渡しするという、空き家の掘り起こしと利活用の業務を担当しました。また、町内へ移住を検討する人の相談に乗ることも多く、「鳥取の人はシャイな人も多いですけど、顔なじみになれば、すぐに打ち解けられますよ」「買い物にはちょっと不便なこともありますよ」と自身の実体験を踏まえながらアドバイスするなど、移住者をサポートする日々を過ごしました。



開業資金や集客への不安 つながりによって前向きになれた

協力隊の仕事と並行して、ヘアサロンの開業準備も進めていた鳥飼さん。協力隊の任期を終えたら、「美容師以外に選択肢はありませんでした。ただ、雇われの身だとサーフィンの時間を確保することがどうしても難しくなるため、自分のお店をもつことに決めていました。できれば、海の近くに」。しかし、開業資金の壁がありました。店舗物件の費用や内装費のほか、美容室やヘアサロンではシャンプー台などの設備投資もかさみます。「それでも、前向きになれたのは協力隊時代に築いた地元の方々とのつながりのおかげでした」と晴れやかな笑顔をみせてくれます。

2022年1月、鳥飼さんは念願の「Seran」をオープンさせます。お店は元々、地元公民館の食堂・調理スペース。サーフィン仲間の協力もあり、ヘアサロンとしてリノベーションしました。その立地は、浜辺まで歩いて10秒ほどと、鳥飼さんが理想としていた場所です。一方で、市街地ではないため、オープン当初は集客や新規顧客の獲得に苦労したそうです。「協力隊時代に培ったPCスキルを活用して、ポスターやチラシ、名刺などは自分で作りPRをしました。地



仕事の合間に波を見つめる鳥飼さん

域の方々とのつながりや応援もあって、少しずつ集客につながっていききました。そんな時に、日本政策金融公庫の担当者さんにお店のニュースリリースを発信してもらったんです。すると地元紙などから取材依頼があり、お店の記事が掲載されると、一気に認知度がアップ。「新しいお客さんも増えて、大きな弾みになりました」。



美容師歴は20年以上。鳥飼さんの商売道具



食堂だった頃の食器棚を活用して、ヘアケア商品を陳列



一歩踏み出した先にあるもの 地域を想う、新しい波

「今は理想的な生活を送ることができています。いい波の日には、店の前でサーフィンをして、そのまま出勤(笑)。着替えて、営業をはじめます。私がサーフィンをする予定の日を避けて予約を入れてくださるお客さんも多くて、本当に恵まれています」。

大好きな湯梨浜の海のそばで、趣味と仕事を両立する鳥飼さんは、これまでの日々を振り返り「移住も創業も、何ごとでもずみることが大切だと感じています。協力隊に参加した人の中には、湯梨浜町から離れてしまった人もいます。それでも、挑戦した

からこそ、彼らは別の道に向かつて歩むことができたのではないのでしょうか」と話します。最後に、鳥飼さんは今後の展望を教えてくださいました。「地域のご高齢の方の中には、お店まで来るのもままならない人も多いです。そこで、今後はヘアカットの出張サービスを展開したいと考えています。カットを通じて地域の方々とのつながりを広げていきたいですね」。湯梨浜町には、新しい波がきています。

■ Company Info ■

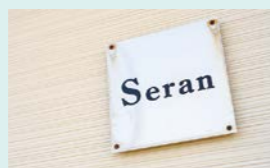
ヘアサロン「Seran」

住所：鳥取県東伯郡湯梨浜町
石脇970-1

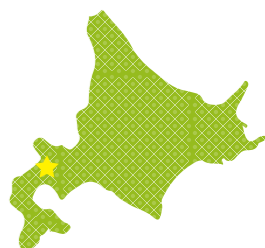
創業年月：2022年1月

事業内容：海見えるヘアサロン。カットチェアは1台のみで、一人一人のカットやセットを丁寧に行う。地肌や髪、環境に優しいオーガニックヘアカラーも導入し、髪の悩みに合わせたカウンセリングも行う。

URL：https://www.ekiten.jp/shop_26441627/



ニセコの雪に魅せられて 作り続ける、自分だけの“カタチ”



Hokkaido
Niseko

北海道ニセコ町は、人口5000人ほどのどかな町。一方で、その雪質の高さから、スキーやスノーボードなどウィンタースポーツを楽しむ人たちが国内外から訪れる人気のスポットです。“パウダースノー”と呼ばれるニセコの雪に惹かれ、地域おこし協力隊を経て「ニセコグローブ製作所」を創業したのが、鎌田諭さんです。



グローブメーカー

「ニセコグローブ製作所」代表

鎌田 諭さん KAMATA SATOSHI

秋田県出身。大学卒業後、大手化学メーカーに就職して12年間勤務。35歳のときニセコ町の地域おこし協力隊に応募し、協力隊として活動しながら2022年8月に「ニセコグローブ製作所」を創業。



「ニセコグローブ製作所」のスキーグローブ

そのビジネスを自分がやる意味 自分の中にあつた、答え

鎌田さんが参加した社会起業家育成セミナーでは、実際に事業計画を策定し、プレゼンテーションを行う機会がありました。「当初は、確実性の高い事業プランを構想しました。でも、セミナーの参加者たちからは、ダメ出しや否定的な評価の方向が多かった(笑)」。この事業は、鎌田さんじゃなくてもできるプランじゃないですか?、”本当にその事業をやりたいんですか? 鎌田さんだからこそそのビジネスをやらないと”。“これらのアドバイスによって、鎌田さんは事業計画を練り直しました。自分自身が情熱を傾けられるものを模索する日々が続く、見つけたのが「幼少期から慣れ親しんだ、大好きなスキーでした」。

です。そんな鎌田さんの決断のスイッチを押し出したのが、地域おこし協力隊でした。全国の各自治体が協力隊を募集する中、大学時代に訪れたニセコ町が協力隊を求めていること知り、「ここだ!」と電流が走りました。

「これから、どう生きていくべきか」 その答えを模索する日々

「スキーグローブは本革で作っています。海外からのお客さんにも好評なんですよ」。一つ一つ、丁寧に仕上げたグローブを並べながら、鎌田さんは穏やかに微笑みます。鎌田さんは秋田県秋田市の出身。幼少期からスキーに親しみ、北海道の大学に進んだからもスキー部に所属していました。部の活の合宿で初めてニセコを訪れ、「その雪質の高さに感動したこと、鮮明に覚えていますよ」と思い、出話に花を咲かせます。

大学卒業後は、大手化学メーカーへの就職を機に上京。営業職として、バリバリ働き、「気づけば30歳になり、人生について考えるようになりました」と鎌田さんは当時の心境を吐露します。今後の生き方を自問自答するなかで、「地元の秋田か、地方に移住して創業したいという想いが生まれ、創業について学べる社会起業家育成セミナーに参加しました」。この行動によって、鎌田さんの人生は大きく動き出しました。

方向性は決まったものの、創業には大きな決断が必要



冬のニセコ町。北海道の富士山といわれる羊蹄山がそびえる

ヤーにグローブの使用感などをフィードバックしてもらい、試作を繰り返しました。「協力隊として収入を得ながら、事業の足場を固めることができ、生活面の不安がなかったのは自分にとっては大きかったです」と笑みをこぼします。また、コストを抑えたことで、創業に際しての資金繰りについても心配はなかったそうです。加えて、「創業前に、ニセコ町商工会が主催したニセコビジネススクールで、日本政策金融公庫の担当者さんと出会えたことも今につながっています。もし事業の運営で悩むことがあっても、いつでも相談できる人がいるから安心です」と話します。



スキーを教える協力隊時代の鎌田さん



グローブづくりに熱中する鎌田さん

もがいて、探して、
最後は自分の好きなものに戻った

「できること」と「やりたいこと」 その違いが、ビジネスの原動力に

「ニセコグローブ製作所」は、社会課題の解決にも寄与しています。北海道では1990年代以降、エゾシカが急増。個体数調整のために処分されたエゾシカの活用が大きな課題になっています。「そのため、グローブの主材料にエゾシカ革を用いてい

ます。地域が抱える課題解決の一助となればと考えています」と鎌田さんは力を込めます。最後に、創業に至るまでの日々を振り返り、鎌田さんはこう話します。「できることと、やりたいことは、大きな違いがあります。創業をする上では、

「好き」と「得意」を活かして ニセコグローブ製作所を創業

35歳の時、鎌田さんは会社を退職。2020年10月に協力隊としてニセコに移住し、ニセコ町教育委員会の町民学習課に勤務。子どもたちにスキーを教えるなど、地域住民が参加するさまざまなアクティビティをサポートする日々の中で、創業の準備も進めました。「元々、モノづくりに興味があったため、スキーをより楽しむ



グローブのカタチに成型したエゾシカの革



鎌田さんの商売道具

ためのアイテムを作りたいと考えていました。一人でも生産できるモノ、ランニングコストが抑えられるモノを考え、スキーグローブを選びました」。鎌田さんはグローブを作るためのミシンや裁縫の技術を独学で一から学び始め、2022年8月、協力隊の活動と並行して「ニセコグローブ製作所」を創業。1年目は、協力隊のつながりで知り合ったスキー

きることを選択する考えもありますが、心から好きなこと、自分自身が「やりたいこと」に挑戦するからこそ、その熱意は周りにも伝わり、ビジネスの原動力になるのだと思います」。

「いろいろ話しましたが、ただただニセコでスキーを滑るのが好きなのでなんですけどね」とちゃめっ気たっぷりに笑う鎌田さん。スキーを楽しむ人たちの手を包み込むのは、ニセコとスキーを愛する人の温かな想いです。



日本政策金融公庫の渡部さんと鎌田さん

■ Company Info ■

ニセコグローブ製作所

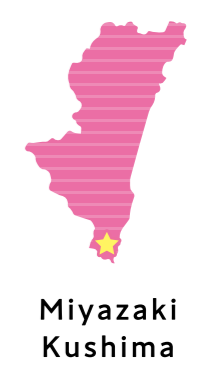
住所:北海道虻田郡ニセコ町
字本通77番地2階
創業年月:2022年8月



事業内容:スキー・スノーボード用グローブの製作と販売。「地域」と「滑り手」の視点を大切に、「ものづくり」を行い、フィット感を重視したオーダーメイドの商品を中心に展開する。

URL:<https://niseko-glove.amebaownd.com/>

多くの人に味わってもらいたい 夫婦が出逢った、串間の魅力



Miyazaki
Kushima

宮崎県の最南端にあり、美しい志布志湾を望む串間市。同市ではマンゴーやさつまいもなどの生産が盛んな一方、農業の担い手不足が課題となっています。地域おこし協力隊として移住し、2023年5月にキッチンカーのクレープ店「GREEN FINGERS Botanical galette」を開業した甲斐舞子さんを訪ねました。



キッチンカー(クレープ店)
「GREEN FINGERS Botanical galette」店主
甲斐 舞子さん KAI MAIKO
神奈川出身。アパレル企業などに勤めたのち、2020年に地域おこし協力隊として串間市へ。2023年にキッチンカー(クレープ店)「GREEN FINGERS Botanical galette」を開業。

夫婦で串間へ移住 大きな決断に至るまでの日々

国の天然記念物に指定される日本在来馬の御崎馬が生息する、串間市の都井岬。澄み切った青空の下、キッチンカーの中で甲斐さんは一つひとつ丁寧にクレープ作りに励んでいます。「生地は配合を試行錯誤して、薄くもちもち食感に。具材にはマンゴーや夏みかん、秋はぶどうなど串間産の旬の果物をふんだんに使っています」。

ましたよ(笑)。当時、私はステツプアップのためにアパレル会社に転職したばかりで、移住なんて考えられませんでした」と甲斐さんは当時を振り返ります。それでも粘り強く説得され続けていたある日、串間市が地域おこし協力隊を募集していることを知りました。

甲斐さんは、神奈川県出身。東京で生活雑貨や衣料品などの企画・販売を行う会社に勤め、精力的に仕事に取り組み日々を送っていました。ターニングポイントになったのが、九州を巡った新婚旅行。旅行中、サーフィンが趣味だった夫の道仁さんが串間の豊かな自然と波に魅せられ、移住を考えるようになったそうです。



都井岬に生息する野生馬の御崎馬

協力隊に興味をもった甲斐さんは、「なんだか、面白そう！自分自身のチャレンジになるかも！」と気持ちが変わり、2020年1月、串間市に移住。夫婦で地域おこし協力隊に着任しました。これまで農業や農産物に関わりのなかった2人ですが、市役所の農業振興課に勤務

「チャレンジになるかも！」 協力隊の日々から新しい明日へ

し、甲斐さんは農作物のPR支援活動を担当。「当時は市の予算がコロナ対策に使われていたこともあり、農産物のPRに使える予算があまりありませんでした。それでも、既存のホームページをリニューアルしたり、SNSで情報を発信したり、イベントに出展するなど、できる



都井岬で営業するキッチンカー



整理されたキッチンカーの室内



モチモチ食感のクレープ生地

ができています」。道仁さんは、ピーマン農家としての道を歩み出しました。「今ではサーフィンより、ピーマンです(笑)」と甲斐さんは大きく笑い、「今後は、ピーマンなど串間産の野菜を使ったサラダクレープとかも開発したいですね」と続けます。

最後に甲斐さんは、移住や創業の日々を振り返り、こう話します。「特別に何かを頑張ったというわけではなく、地元の方と1人でもつながりができると、そのつながりが新しいつながりを呼んで、その輪は自然に広がっていききました。いつの間にか、その輪の

開業時に苦労したことを甲斐さんに尋ねると、「協力隊時代はもちろん、今も多くの人に支えられ、毎日楽しく過ごすことができています。それと、日本政策金融公庫の融資によって、資金面の不安も解消されましたから、苦労したとは思っていません」と笑みをこぼします。「そういえば、移住した当初は方言に戸惑いましたけど(笑)、もう慣れました」。最後に甲斐さんは、移住や創業の日々を振り返り、こう話します。「特別に何かを頑張ったというわけではなく、地元の方と1人でもつながりができると、そのつながりが新しいつながりを呼んで、その輪は自然に広がっていききました。いつの間にか、その輪の



都井岬だけでなく、地域のイベントなどにもキッチンカーを出店

常に前向きに挑戦することで 人の輪は大きく広がっていく

中に、私たち夫婦も入っていたように思います。いかなる逆境も挑戦ととらえ、常に前を向き続ける甲斐さんは、今日もキッチンカーを走らせませす。串間の笑いを多くの人に味わってもらうために。



マンゴーの甘みがとろけるクレープ



宝石のように輝くイチゴのクレープ

限りのことを実施しました」と、マーケティングやイベントの企画、デザイン、HP制作など前職で培った経験を発揮しました。一方、道仁さんは、協力隊として農業に従事。同時に、さまざまな農家を回って作物の育て方や土の性質、防除薬などを学び、農業への理解を深めていきました。



ひとつの出会いが、
大きくあたたかな輪になっていく



農家さんから仕入れた新鮮な果物

地域に溶け込み、創業 夫婦二人三脚で歩み続ける

休日には趣味のサーフィンを夫婦で楽しむなど、串間での生活に徐々に溶け込んでいった甲斐さん。協力隊としての3年間の任期を終え、2023年5月にキッチンカーのクレー

プ店をオープンさせます。「協力隊時代に串間産の農産物の美味しさを体感したことで、もっと多くの人にこの美味しさを伝えたいと考えました。クレープなら新鮮な果物はもちろん、野菜の美味しさも最大限に活かせると思ったんです」。

クレープに使う果物は、協力隊時代に知り合った地元農家から仕入れることも多く、みずみずしい新鮮な甘さをたっぷり味わうことができます。「オープン以来、たくさんの方の農家さんにご協力いただいています。地域の皆さんのおかげもあり、毎日楽しく仕事を

Company Info

GREEN FINGERS
Botanical galette

創業年月: 2023年5月

事業内容: 串間市で生産された果物や野菜を主役にしたクレープの製造・販売。

URL: https://www.instagram.com/botanical_galette/



〈座談会〉 移住・創業を 後押しした "つながり"



串間市へ移住し、キッチンカーのクレープ店を開業した甲斐さんは、「つながりは自然に広がっていった」と話します。そのつながりの1つが、串間商工会議所、宮崎銀行、日本政策金融公庫との縁です。創業に至るまでの日々を語り合いました。

座談会の内容はこちら▼

<https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/ijuusougyou/case/02.html>





地域おこし × 自分おこし

新しい生き方、はじめました。

「0」から始まるご相談

創業ホットライン

事業資金相談ダイヤル

行こうよ! 公庫



0120-154-505

※音声ガイダンスの後に「0」を選択してください。

※電話番号のお掛け間違いにご注意ください。

受付時間 平日9:00~19:00

(国民生活事業)



日本政策金融公庫

国民生活事業

<http://www.jfc.go.jp/>

日本公庫

検索

●事業資金に関するお問合せは、事業資金相談ダイヤル（フリーダイヤル）
0120-154-505 または、最寄りの支店までお願いします。